

母国の料理を紹介するための日本語

対象者の日本語レベル	初級から上級まで	時間	5 時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・料理の作り方を伝える日本語がわかる。 ・料理の作り方が説明できる。 		
デモンストレーター	料理の作り方を教える学習者の代表 1 名 ※母国の料理といっても、家庭によって様々な作り方があるが、一つの作り方に絞る。		
日本語補助者	参加者 1 名に日本語補助者 1 名が理想的。 ※日本語補助者は学習者から料理を習う役割も担う。		
準備物	料理の食材		
配布物	振り返りシート		

講座の流れ

時間	学習者の活動	留意点
15 分	【イメージをつかむ】 <ul style="list-style-type: none"> ・講座のねらいと進め方を確認する。 ・自己紹介をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者と日本語補助者がペアになり、2 つのペアで一つの調理台を使う。日本語補助者がいないときは、日本語で指示を伝える学習者とその指示を聞いて調理を作る学習者に役割分担をする。
20 分	【ことば・表現を知る】 <ul style="list-style-type: none"> ・食材、調理器具の名前を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語補助者は、学習者が理解しているか確認し、理解していない場合は、講師に質問して確認するように促す。(なるべく自分で答えない)
90 分	【体験・行動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語補助者に料理を教えて、作ってもらう。 <作業手順> <ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーターは料理の工程を細かく区切って学習者に説明する。 ・学習者はその説明を自分のペアである日本語補助者に伝える。 ・一工程ごとに学習者が日本語補助者に説明を伝えて、日本語補助者が調理するという作業を繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デモンストレーターに対し分かりやすい日本語の表現で説明できるようアドバイスする。 ・学習者が作業の仕方がうまく日本語で伝えられないときは、デモンストレーターに何度も説明を聞きに戻る。学習者はメモを取ってもいい。 ・日本語補助者は、学習者の日本語での指示に従って作業をする。
85 分	【ことば・表現を使う】 <ul style="list-style-type: none"> ・できた料理を試食しながら、日本語補助者と料理について話をする。 【行動・活動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・後片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語補助者は、一方的に話したり、学習者に対して質問攻めにしたりしない。 ・「後片付け」が学習者と日本語補助者の共同作業となり、日本語でのやり取りができるよう指示する。
60 分	【体験・行動する】 <ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を思い出して、料理の手順を書き起こす。 ・料理の手順を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者が日本語補助者に助けをもらいながら料理の手順を書き起こすよう指示する。 ・日本語補助者は、学習者が手順を思い出し、日本語で書けるようアドバイスする。
30 分	【学習を振り返る】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習者は振り返りシートに、講座で覚えたことばや表現を記入する。 ・振り返りシートに書いた表現を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートには学習者が印象に残ったことばや表現、覚えて使いたい言葉や表現を書くよう指示する。 ・日本語補助者は学習者が学んだ言葉や表現を思い出せるようヒントを与え補助する。



調理台は2組のペアで使用しましょう。

1組のペアだけで1つの調理台を使用するよりも、2組のペアで使用したほうが、4人の共同作業となり多様な対話が生まれます。

その際、日本語の上手な学習者だけが料理の説明をして、日本語のできない学習者は見ているだけにならないように配慮してください。



自己紹介は日本語学習の最高のチャンス

自己紹介は初めてあった人どうしの会話のきっかけとなり、場の雰囲気を和ませる効果がありますので、自己紹介を工夫すると内容の濃い日本語学習ができます。例えば、学習者と日本語補助者のペアがお互い自己紹介をし、その後、同じ調理台を使う別のペアに自分のパートナーを紹介するといった活動をする、「情報を聞き出す日本語の力」、「聞いた情報を伝える日本語の力」など、日本語を実践的に鍛えることができます。まさに対話による日本語学習ですね。



後片付けの時間も貴重な日本語学習のチャンス

共同で作業をするためには、コミュニケーションが必要です。日本語で手順や分担を相談し作業をする「調理実習の後片付け」の時間は、貴重な日本語学習の機会となります。ときどきボランティアさんが、「私がやってあげるから、やらなくていいよ」と片付けを買って出してくれる場合がありますが、これはもったいない。「調理実習の後片付け」は日本語の活動の一つなので、「これはどこにしまいますか?」「その引き出しにしまってください」など、たくさん対話しながらいっしょに楽しく後片付けをしましょう。



私の家の作り方と違う！

国の代表的な料理といっても、それぞれ家庭の味があり、作り方も学習者によって微妙に違います。日本語の学習として取り扱う場合は、作り方を統一したほうが教えやすいです。そこで、日本語指導者は「今日は〇〇さんの家の料理の作り方で料理を作ります。」と、デモンストレーター料理の作り方を伝える日本語の学習だということを最初に断わって始めます。